

平成30年度第4回 安城市子ども・子育て会議 会議録

日時 平成31年3月12日(火)
午前10時00分～11時30分
会場 市役所本庁舎3階 第10会議室

■出席(15名)

神谷明文会長、石川伸男副会長、柴田綾乃委員、細井治子委員、執行紀美代委員、岩瀬せつ子委員(代理:岡本富子様)、塩之谷真弓委員、都築光男委員、土肥由美委員、鈴木靖子委員、重田一春委員、小松千鶴子委員、市川彩委員、木内正範委員

助言者:勅使千鶴教授

■欠席(6名)

成島清美委員、榊原守委員、喜邑友宣委員、塚本有子委員、小野真奈美委員、杉浦泰治委員

■次第

1. 会長あいさつ
2. 議題
(1) 平成31年度保育園・認定こども園の定員について(資料1)
(2) 市民アンケート結果について(資料2)
3. その他

■議題

議題1 平成31年度保育園・認定こども園の定員について(資料1)

資料1について、事務局から説明

【神谷会長】

只今の説明について、ご質問、ご意見はございますか。

【市川委員】

資料については、よくわかりました。しかし、一部だけを抜粋された形となりますので、安城市全体の子どもたちの人数の動きをこの資料だけで把握するには難しいかと思えます。保育園や認定こども園以外の公立幼稚園や私立幼稚園の人数がどうなっているのかがわかれば、より全体の動きがわかりやすくなると思えます。

【事務局】

ご要望にありました資料については、各幼稚園の状況をとりとまとめて、7月の会議でご提示してまいります。もうしばらくお待ちいただければと思います。

【神谷会長】

ありがとうございました。たしかに幼稚園の動きもあった方が、全体の動きも把握できると思います。昨年はそのような資料があったと思いますので、よろしくお願いします。

安城こども園とさくのこども園は平成31年度4月から認定こども園になるとありますが、0～2歳児の受け入れはどうなりますか。

【事務局】

安城こども園は錦保育園を、さくのこども園は作野保育園を連携園として、両保育園で0～2歳児の受け入れを行っていきます。この認定こども園については、空き教室を利用して、幼児に特化して受け入れを進めていきます。

【勅使助言者】

幼保連携型認定こども園の中に、幼稚園型と保育園型があります。今回の場合は、幼稚園を中心として、3歳以上を受け入れる形態となっていると思われます。わかりにくいと思いますが、幼保連携型認定こども園、保育園となっています。

【神谷会長】

ご質問がないようでしたら、議題2に移ります。

議題2 市民アンケート結果について（資料2）

資料2について、事務局から説明

【神谷会長】

只今の説明について、ご質問、ご意見はございますか。

【木内委員】

結果報告書85頁、放課後児童クラブの希望について、施設設備改善の希望が高いとの説明がありました。例えば中部小学校の児童クラブは一戸建てで、子どもの学習の場、職員の方の事務の場、体調の悪い子は和室で休むなど、機能的に建てられていると思いますが、ここは特別なのでしょうか。他の学校では空き教室で児童クラブを行っているところもあると聞きました。子どもの安全、学びの場、生活の場であるということを考えると施設の改善は子どもにとって重要だと思います。学校の空き教室がいくつあるのか、プレハブがいくつあるのかなど、現在の状況を教えてください。

また、児童クラブの運営上、学校の協力が非常に大事だと思います。例えば、子どもの体調が悪くなったが、親が仕事などですぐに迎えに来られないため、なんとか児童クラブで見てほしいといった場合、学校の先生から児童クラブに連絡があれば、子どもが体調を崩していることを知らないまま預かってしまうということは起きないと思います。災害があった場合も、学校長と児童クラブが連携して避難方法を確立していただけたらと思います。

95 頁の重要度の中に給食のことがあります。給食については、高いニーズがあると読み取れます。偏食や小食、食物アレルギーなどの問題があり、お弁当を持参しているケースもあると思いますが、現場の職員の方の給食指導等はどのようにされているのか教えてください。

100 頁の民営化になった場合の不安事項に、保育士や教職員の資質とあります。民営と公立では、採用試験や研修が異なると思います。公立では、園長先生、主任先生、新任の先生それぞれを対象とした研修など、きめ細かい研修を行っていると思います。民営化された場合は、同じように研修の機会があるのか教えてください。

【事務局】

85 頁の児童クラブの状況について、47 クラブが各学校にあります。少ないところで1クラブ、多いところで3クラブあり、それぞれの学校で、専用クラブを設けています。中部小学校であれば、専用クラブが2箇所、1箇所は学校内の特別教室を使用しています。他の学校についても、1～2箇所の専用クラブがあります。西部小学校を除いて、ほとんどの学校で校舎外にあります。図工室や理科室などの特別教室を使用しているところに関しては、専用クラブと比較するとスペースが狭いといった施設の改善要望があると思います。

学校と児童クラブの連携については、集団下校時に児童クラブの集団をつくっており、その際に学校の先生から支援員に引き渡し、連絡しているため、学校と児童クラブの連携は取れています。

また、災害時は、一度学校から出る形になります。学校ではなく児童クラブでの対応となるため、各児童クラブにおいて災害時の対応マニュアルを作成しています。それぞれの児童クラブで保護者を待つという対応になります。児童クラブは基本的に19時までの施設となっており、19時以降は多くの学校が避難所となりますので、学校に移って保護者を待つことになります。そのため、校長先生の指導をもとに避難することにはなっておりません。

給食については、毎年、アレルギー調査票を保護者に配布して把握しています。保護者と連携をとりながら献立表に基づいて対応しています。栄養士がなるべくアレルギーの少ない食物を選んでいますが、全てには対応できませんので、中にはお弁当を持参されるお子さんもいます。アレルギー対応についてはマニュアルがあり、食器を変える、トレーを変えるなどして間違いがないようにしています。食習慣については、各園で食育計画を策定しています。また、栄養士が各園を回り、お子さんが楽しんで食事ができるよう心掛け、食べ物に興味を持てるように取り組んでいます。

民営化に関しては、今後検討してくため、現在はわかりません。

【勅使助言者】

民営化についてのお話がありましたので、申し上げたいと思います。民営化が問題になってい

るのは、各自治体の財政の問題からきています。かつては公立も民間も、認可されていれば施設設備も含めて国から自治体へ補助がありました。しかし、国の方針が変わり、認可保育園であれば民間に対しては施設整備に国からの補助が出る一方、公立の場合は補助を出さないこととなりました。名古屋市の場合はこうした事情から、公立を民営化する方針としていますが、公立園を子育て支援の拠点化するという意味も踏まえ、全てを民営化することにはなっていない。自治体によっては、全て民営化しているところもあります。安城市の財政力をどう考えるかが大事だと思います。

OECDの大きな流れは、チルドレンファーストといった、子どもが第一であり子どもに人権があるという考え方です。経済学者ヘックマン（米）など様々な人が、子どもにお金を使っておいた方が、大人になってからの犯罪、進学、就職問題のために自治体を使うお金が少なくなるという調査結果を出しました。北欧を中心とした先進国では、公立がお金を出すことで、その意味を明らかにしながら運営していくといった方法をとっています。しかしアメリカなどでは元々、民営化するという動きがあるため、民営化しないというわけではありません。そうした中で、安城市の財政検討を子ども子育て会議でできるといいと思います。安城市は外からみると財政が豊かだと思しますので、10年、20年、30年先を見たときに、どういった子どもが安城市を背負ってくれるのかを考えた方が良くと思います。

しかし、財政を考えることは大変なことでもあります。低年齢児の保育ニーズがあることを受け、新たにつくるところは民間で行うということも一つだと思います。また、すでにある公立施設の施設設備を含めて建築費を出すことは財政面から大変なことだと思いますが、20年30年先に、それが実を結ぶことになるのではないかと考えています。

私は、子ども・子育て会議以外でも安城市と関わってきました。安城市は、特別事業、例えば乳児保育、特別支援を必要とする子どもの保育、休日保育などはすべて公立から始めています。一方、名古屋市の場合は、全て民間から始めています。そう考えると安城市は良い取り組みをしていると思います。

施設設備が良いということは、子どもにとって大事なことです。9頁にもあるように、幼児教育・保育を選ぶ視点として、施設設備に目が向くことは当たり前のことだと思います。

国の方針に沿って、自治体では「幼保小」の連携としています。「幼」というのは幼稚園ではなく、3歳以上の幼児教育を幼稚園、保育園、認定こども園で行うとしており、3歳未満は「保育」としています。幼保小の連携だけではなく、連続ということで、教育委員会と保育課が一緒となって考える必要があります。安城市では保育課が中心となって幼保小の接続を考え、幼稚園、保育園、認定こども園、公立民間合わせて、すべての子どもが、小学校に入ったときに主人公になっているようなカリキュラムを考えています。また、日本保育学会の中部地区研究集会にて、各地でどのように幼保小の連携が行われているか報告がありました。他では教育委員会に所属している方、地域の研究者の方が報告をしていましたが、安城市は保育課で働いていた元職員が幼保小の連携の報告をしたところ、集会に出席していた厚生労働省の職員もなるほど、と思っていた様子でしたし、安城市は先進的な取り組みをしていると思いました。

まだ取り組んでいませんと言われましたが、「民営化」と文字に残ると、必ず民営化しそうな気がします。世界的な動きや、日本の動きの中で、安城市は予算的なところもあると思いますが、「民営化」を検討するうえでの視点は「チルドレンファースト」とし、子どもの人権を保障す

るのはどんなに大変かということ踏まえたうえで、やって頂けるといいなと思います。

【事務局】

温かいお言葉ありがとうございました。安城市の保育は、先進的な取り組みとこれまでの実績があり、一生懸命取り組んでいると自負しています。公立の持つ意味、果たす役割は大きいと思います。そして、その果たす役割が何かをもう一度見つめ直した上で、今後何をすべきか検討していきたいと思います。厳しい財政の中で、先ほど児童クラブの整備のお話もありましたが、子どものために使う財源をどう選択し、集中していくのかを市民の皆さんと一緒に検討していく必要があります。民営化についてはまだ決まったわけではなく、今後議論を進めていく段階ですので、皆さんと情報を共有して考えていきたいと思います。

【市川委員】

先ほど児童クラブについてのご意見がありました。児童側の状況はわかりました。一方で、受け入れ側の状況も知りたいので、定員や学童数など地区ごとにどうなっているかを教えてください。

また、チルドレンファーストとありましたが、結果報告書 69 頁にもあるように、安城市には放課後子ども教室があり、カエルの解剖など授業では出来ないことを行っていました。非常に人気と聞いていたのですが、現在は中断となっています。これは運営側の都合もあると思いますが、子どもが主体的に参加したいと思える放課後子ども教室を今後検討して欲しいと思います。

また、私は安城市教育振興基本計画にも関わっています。計画は大人側の視点で策定していますが、子どもがこうした取り組みを知る機会があるのかどうかを強く聞いたことがあります。今後は、子ども自身が知り、考えて行動することが大事だと思いますので、チルドレンファーストの考え方を計画に入れて欲しいと思います。

【事務局】

児童クラブ数は、27年度は33クラブだったところ、28年度に4年生までの受け入れを行うということで43クラブ、その後、29年度に5、6年生の受け入れを一部始めて46クラブ、今年度1つ増えて、47クラブまで拡充しました。人数は、27年度4月当初には1407人、28年度は1705人、29年度は1867人、30年度は1958人となっています。31年度はまだ確定していませんが、2000人を超えてきています。その関係で、8校で5、6年生の受け入れができていない状況ですが、来年度は15校が受け入れできないというところまで来ており、大きな課題となっています。

放課後子ども教室については、教育委員会の管轄で、別々の組織で動いておりますので、現状ではお答えしにくい部分があります。

【神谷会長】

児童クラブは今まで5、6年生はやっていませんでしたか。

【事務局】

29年度から一部、余裕のあるところで実施しています。

【神谷会長】

予測は難しいと思いますが、幼稚園保育園の無償化の影響をどの程度お考えなのかを、予測でいいので教えてください。

【事務局】

3歳から5歳児につきましては、どちらかの保育園、幼稚園に入園できているため受け皿が足りなくなるということは考えられません。アンケート結果にありましたように、私立に移行していく可能性があります。低年齢児については、入れるところに入園することとなりますので、公立と私立で受け皿を確保していきたいと考えています。

【勅使助言者】

私立保育園の保育料は、3歳以上でも公立と同じ金額ですか。

【事務局】

同じです。

【勅使助言者】

それなのにどうして移行していくということになりますか。

【事務局】

アンケートの結果でそうっており、今後、分析が必要かと思います。

【神谷会長】

私立の場合、通常のサービス以外にオプションとして習い事の選択余地があるものの、これが公立では難しいのではと考えられます。断定はできませんが、様々な要因が絡んでいるものだと考えられます。

■その他

【神谷会長】

全体を通して、なにかご意見ありますか

【勅使助言者】

委員の方に質問ですが、市役所から送られている資料についてどうお考えですか。児童クラブについてお話が出ましたので、都築先生いかがでしょうか。校長会で様々な意見がでるかと思いますが、この資料についてどうお考えでしょうか。また、幼保小の連携について、公立は良くや

っており、むしろ私立の保育園、幼稚園の先生たちも幼保小の連携の研究会に出席できればより良いのかな、と思います。

【都築委員】

アンケートをみて、安城市には様々なサービスがあるのだなと思いました。中学生になるまでに、保護者がこうしたサービスを知っていれば、子どもが孤立しなかったのではないかと、相談機関があるのに相談にいけないといった問題は起こらなかったのではないかとと思いました。

特に、アンケートの結果では80%の方が自宅で過ごしたいとの要望があり、引きこもっている状況であると感じました。昔は、近所の公園やお寺で遊ぶなど、集団で行動する機会があったので、社会性が育ったのではないかと考えられます。しかし、80%が家にひきこもっている現実をみると、安全に遊べる場所の確保が必要であると思います。

また、多くのサービスがあることを知らない方が多いのは情報発信が足りないと思います。日進市では、いま若い世代が多くなっていますが、小さい子にやさしい地域という話を聞いています。日本人は公的な機関にかかると恥ずかしいというイメージを持つ方が多いと思いますが、困ったときに頼れるサービスの周知が必要なのではないかと思いました。

【神谷会長】

広報問題については同感です。これは市役所に頑張ってもらう必要があります。

他にご意見はよろしいですか。それでは、お時間になりますので、本日の議事は終了となります。

最後に、勅使先生が本年度をもってご勇退されます。一言いただきたいと思います。

【勅使助言者】

若い人に譲っていかないといけないと思いながら本日までできました。子ども子育て会議だけではなく、安城市の幼児教育、保育に関わる様々なところで勉強をさせていただきました。

安城市では、子どもを中心にして、保育園、幼稚園、こども園、関係機関の方々、そして自治体の職員が一緒につくっているという印象があります。例えば、民営化については、意見が分かれるところだと思いますが、自由な意見を言わせていただけること、その中で良いことを実現できることが安城市の良いところだと思います。民営化もうまくいくのではないかと考えています。

【神谷会長】

ありがとうございました。

それでは、これで会議は終了とさせていただきます。

【事務局】

勅使先生におかれましては、長年にわたり安城市へご助言いただきありがとうございました。

次年度の開催日については、まだ決まってはいませんが、今後ご案内させていただきます。

以上